

AIPH規則 付属書 X – サステナビリティ (2023) (日本語仮訳)

要求事項

この付属書はAIPH A1クラス国際園芸博覧会規則の不可分の一部であり、博覧会主催者に対する契約要求事項を記載している。

博覧会主催者には、博覧会の承認後、直ちにサステナビリティ戦略の立案に着手することが求められる。

持続可能な世界園芸博覧会の開催とは、責任の共有の一種である。これには、申請の初期段階からレガシー段階に至るまで、主催団体内はもちろんのこと、さまざまな配送パートナー、サプライヤー、公的機関および外部組織との緊密な連携と協力が求められる。

この付属書では、サステナビリティ戦略の策定における成功要因、およびその戦略を実施するために期待される方法を詳述する。

目的

世界園芸博覧会と国際園芸博覧会が世界で最も持続可能な主要イベントとして認知されるようになることが、AIPHのビジョンである。

AIPH規則は、以下を可能にするためにいくつかの必須条件を定めている。

- 博覧会主催者は包括的なサステナビリティ戦略とレガシー計画を策定し、建設工事、運営およびレガシーの引継ぎを含有する実行計画の策定を支援すること。
- 意思決定やリスク管理のプロセスに、持続可能性やレガシーの基本方針が完全に統合されるよう、博覧会主催者が効果的なガバナンス体制を確立する能力を強化すること。
- 博覧会主催者が、質の高い博覧会開催組織におけるベストプラクティスと足並みをそろえ、それらを将来の博覧会主催者に引き継げるようにすること。
- 博覧会のサステナビリティパフォーマンスを効率的に測定、監視、評価し、継続的な改善を図ること。

内容

この付属書では、以下についての助言を記載する。

1. サステナビリティ戦略とレガシー計画
2. サステナビリティ実施計画
3. サステナビリティ教育、コミュニケーションおよびエンゲージメント
4. サステナビリティレポート
5. マネジメントシステム

1. サステナビリティ戦略

博覧会主催者は、AIPHおよび開催国当局と協力し、サステナビリティ戦略を策定するものとする。この戦略は、博覧会プロジェクトに組み込まれる具体的な持続可能性の目標を特定するためのものである。また、かかる目標が将来的に開催都市、開催地域、開催国にどのように貢献するかを説明するレガシー計画の立案に関するセクションを戦略に含まなければならない。この戦略では関連する全てのステークホルダーグループの意見が考慮されるものとし、また、この戦略は、申請段階で設定されたコミットメントや計画を詳細に発展させ、改良したものとみなされるものでなければならない。

サステナビリティ戦略には、以下についての方針が含まれるものとする。

- 環境
- 労働
- 人権（この方針は、国連人権宣言に沿ったものでなければならない）
- 腐敗行為防止
- 多様性
- アクセシビリティ
- 倫理綱領

この戦略的目標は、AIPHサステナビリティポリシーにおける次の5つの優先テーマに従い構成されるものとする。

- 気候変動対策
- 生物多様性の保全
- 持続可能な調達と資源管理
- 公平性と包括性
- サステナビリティ教育と意識向上

各目標には、それぞれ対応するねらいと重要業績評価指標（KPI）が設定されなければならない。以下の分野において取るべきアプローチも戦略において説明されるものとする。

- ガバナンス
 - 戦略の実施のための役割と責任の特定。
 - 戦略とそれをサポートする計画の実施における潜在的な問題を解決するための透明性のあるメカニズム。
 - 問題に対するコミュニケーション対応の調整。
- 観賞用植物の生産における最も持続可能で倫理的かつ先進的な実践を指し示す技術革新
- サステナビリティ教育、コミュニケーションおよびエンゲージメント
- 成果と教訓についての知識共有と報告

レガシーに関し、この戦略ではレガシーの全体的なビジョン、優先項目、主要目標、所有者、責任主体、および期間について特定するものとする。

2. サステナビリティ実施計画

博覧会主催者は、開催国当局と協調し、持続可能性に関する具体的な実施計画を定めるものとする。これにより、資源の必要性、問題点およびリスクに沿った明確な行動計画が立案され、また、進捗状況の追跡を評価、報告するシステムが設計される。

サステナビリティ実施計画は、サステナビリティ戦略で定義される目標を実現させるための詳細な要素を提供する。サステナビリティ実施計画は、AIPHに提出して審査と承認を受けなければならない。

この実施計画は、博覧会のライフサイクルにおける3つの主要段階を含むものとする。

- 建設
 - 恒久的なインフラ
 - 仮設構造物、看板および装飾
 - 造園および生態系の管理
- イベント運営
 - 輸送とモビリティ（アクセシビリティを含む）
 - エネルギーおよび水の管理
 - ケータリング
 - 廃棄物管理
 - 小売
 - セレモニー、ショーおよびプロモーション
- 解体工事およびレガシーへの移行
 - 材料、構造物、その他の資産の再利用および転用
 - 景観の回復
 - 報告

3. サステナビリティ教育、コミュニケーションおよびエンゲージメント

世界/国際園芸博覧会は、年齢や文化を問わず多くの人々を魅了し、情報を提供し、インスピレーションを与える可能性がある。これは、博覧会開催都市や開催国にとって極めて重要な機会であり、この可能性を最大限に生かすための一貫した計画が重要となる。

具体的な計画では、目標、対象者、方法、リソースおよびスケジュールを明確にする必要がある。これらの計画は、AIPHに提出して審査と承認を受けなければならない。

- サステナビリティ教育計画
- サステナビリティコミュニケーションおよびエンゲージメントに関する計画

どちらの計画でも、持続可能性に関する学習や意識を強固にするイベント体験の重要性と価値を強調する必要がある

各計画の第1版は、博覧会開会の2年前に完成させ、更新された最終版は博覧会開会の6ヵ月前に完成させること。

4. サステナビリティレポート

博覧会のレガシーの重要な要素は、知識、ベストプラクティス、ケーススタディおよび教訓の継承である。これは、博覧会開催の経験を共有し、直面した課題や問題とそれらへの対処法を明確にし、成果を記録する精神で行われることが重要である。うまくいかなかった事柄、あるいは、もっとうまくできたはずの事柄を説明する能力は、真の学習にとって重要であり、また、大規模イベントの管理への理解を深めるための基礎となる。

建設工事と準備段階を含む一連のサステナビリティレポートを公開し、最終的には、サステナビリティプログラム全体（イベント運営と初期のレガシー移行作業を含む）について報告しなければならない。

- プレイイベント・サステナビリティレポート：建設工事と準備段階に焦点を当てた報告書（博覧会開会6ヵ月前に発行）
- ポストイベント・サステナビリティレポート：博覧会最終報告書および評価アンケート1の一部となる報告書（博覧会閉会から3ヵ月以内に発行）
- サステナビリティおよびレガシーレポート（ケーススタディを含む）：博覧会評価アンケート2の一部となる報告書（博覧会閉会から3年以内に発行）

レガシーレポートは、長期的な効果や傾向の報告が可能となるよう、博覧会閉会后、より長い間隔を置いて作成することが有益である。

5. マネジメントシステム

博覧会主催者は、ISO 20121：2012（イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム-要求事項と利用手引）に準拠したマネジメントシステムを構築するものとする。この国際的に認められた規格は、上記の要求事項が博覧会の実施に適切に組み込まれていることを保証する最も効果的な方法である。よく練られたマネジメントシステムは、博覧会主催者が自らの持続可能性へのコミットメントを把握し、効果的なプロセスを日々の運営に組み込むことを可能にする貴重なツールである。

マネジメントシステムは、真に持続可能な世界/国際園芸博覧会を実現するために重要な、主催者団体の主要活動を対象としている。

このマネジメントシステムは、ISO 20121の第三者認証を受審することができる。